

2025 年に向けて「金融リテラシー」の位置づけ

社外理事 幸田 博人

2024 年も 11 月後半に入り、残すところ、あと 1 ヶ月強です。11 月は、日本の衆議院総選挙の結果、自民・公明の与党の過半数割れを受け、11 月 11 日の特別国会の首班指名で石破内閣が発足したものの、当面は少数与党として、政策ごとの合意形成の仕組みでの運営となる見通しです。また 11 月 5 日の米国大統領選挙で、トランプ氏の大統領返り咲きで、米国の自国中心主義が一気に加速することになりそうです。世の中の見通しが立ちにくく、複雑で不透明な状況に陥り、それぞれの国における分断状態は強まり、内向きの議論がますます主流でしょう。足元、トランプ相場ということで、米国株式市場の勢いがどこまで続くか、冷静に見ておく必要があるかと思えます。

私自身は、2023 年 6 月に日本金融商品仲介業協会の社外理事に就任し、約 1 年半が経過しました。2024 年は、新 NISA の広がり、金融経済教育推進機構 (J-FLEC) の発足など、金融教育や金融リテラシー向上に向けた取り組みが進んだ 1 年であったかと思えます。そうした中で、京都大学金融セミナー「金融リテラシーが未来を拓く」のキーノートスピーチで、中桐理事長が「ファイナンシャル・アドバイザーの役割とは」で講演し、相応の関心を参加者からいただきました。投資や資産形成に関心が広がる中で、「金融リテラシー」に注目してもらうことは、ますます重要になると強く感じた次第です。

最近、私の身近な方、お二方が書籍を発刊したので、紹介します。その 2 冊とは、川北英隆氏 (京都大学名誉教授) の『個別株の教科書』(ディスカヴァー・トゥエンティワン) と、大垣尚司氏 (青山学院大学教授) の『生きづらい時代のキャリアデザインの教科書』(日本経済新聞出版) です。お二方とも、民間金融機関から大学に転身し、現在も大学中心の生活環境に身をおいており、人生キャリアとお金の話を自分自身の経験を率直に重ねあわせて語っているところに共通点を感じています。大垣氏のキャリアデザインの提案には、「幸せの尺度をお金から時間へ」(297-307 頁) ということで、新しいロールモデルが感じられます。また、川北氏の書籍では、個別株と個人の付き合い方が人生を有意義にするヒントがちりばめられていて、特に「おわりに」(249-

258頁)は、私自身大変興味深く読みました。例えば、「成長する企業とは、結局のところ社会に役立つことをしている企業である。・・・素晴らしい企業に1票を入れることは、社会に貢献することでもある。」(257-258頁)などは、株式を通じた社会への参加が有意義であることを示唆しています。是非、ご関心がある方は、本書籍を手にとっただけであればと思います。

「金融リテラシー」を学んでいくことは、日本の将来の資産形成に大きく役立つことにつながることを確信しています。当協会において、「金融リテラシー」活動を行うことは、当協会の発展につながり、また、国民の資産形成に貢献していくことにつながることを考えています。新しく発足した当協会の「金融リテラシー委員会」の活動を、2025年に向けて、皆様とご一緒に、前に進めていければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(参考文献)

- ・川北英隆著『個別株の教科書』(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2024年)
- ・大垣尚司著『生きづらい時代のキャリアデザインの教書』(日本経済新聞出版、2024年)

(2024年11月14日記)